

# グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No. 45号  
2019.1月

発行:NPO法人  
みどりの市民  
〒380-8553 長野市若  
里 4-17-1 信州大学  
工学部 UFO ながの  
高木研究室内  
発行人:高木直樹

## 2019年の初めに思う

代表理事 高木直樹

皆様、あけましておめでとうございます。おかげさまでみどりの市民も新しい年を迎えることができました。数年前から無理しないでメンバーがやりたいミッションをみどりの市民というNPO法人を使って、やっってもらうことを活動の中心にしてきました。予算的には厳しいものの、活動に参加する多くの方が、「参加してよかった。」と思ってもらい、メンバーやスタッフも充実感を得られるのであれば、みどりの市民の活動としては十分なのかもしれません。

パリ協定が2016年に決まり、年末のプラハのCOPでもパリ協定を実行するための約束ごとが決まっています。気候変動対策を進めなければならないという方向性は世界共通のものとなりつつあります。アメリカのトランプ大統領が「あんなものはフェイクニュースだ!」としてパリ協定から脱退すると宣言していますが、アメリカの各州は独立性が高く、「わが州としてはパリ協定に留まる。」と宣言している州も多数あります。こうした混乱が早く収束して世界が一つになって低炭素社会に向かうことを祈らないわけにはいきません。

IPCC 5次報告書でもパリ協定でも、日本政府も長野県も最近は緩和策だけではなく、適応策に力を入れています。気候変動対策には、省エネなどで温室効果ガス排出量を削減する緩和策と、暑さに強いコメやリンゴの品種改良を行うなどの暑さ対策をする適応策があります。優先順位は緩和策が優先ですが、それでも気温は上昇するので、熱くなった世界をイメージしてそれに耐えうる社会を作ることが適応策です。

IPCC 5次報告書の中でも「緩和策としても適応策としても有効な対策が重要」という趣旨が書かれています。私の専門の建築で言えば、省エネ型の住宅は住宅そのものが省エネであるため、緩和策として有効ですが、外気温の変化が住宅内にすぐに響かないという意味からは適応策としても有効です。隙間だらけの空間でエアコンをガンガン動かしてもあまり涼しく(暖かく)なりません。少ないエネルギーで涼しく(暖かく)なれば、エアコンを我慢しなくても済みます。こうした対策を進めていくことの重要性をつくづく考えます。



2017年の3月に我が家のCO2排出量を報告しました。その段階では1.86t/年の排出でした。一番排出量が多かったのが石油暖房で、おおよそ2t近い排出量でした。昨年(2018年)春に暖房機が動かなくなり、石油暖房から電気暖房(エアコン)に替えました。まだ一冬を過ごしていないので、最終的には不明ですが、電気のほうが排出量は減る傾向なので、今年はさらに減り、1t/年を切るのではないかと予想しています。最終的には系統電力に頼らない自立型住宅を目指す方向性も見えてきました。3月の定年退職後は自宅の省エネチェーンアップにも力を入れていきます。

# 「より良い未来の創出」という新たな指標を掲げて

～環境活動をわかり易い説明で SDGsや ESD を進めて行こう～

渡辺隆一：みどりの市民理事（信州大学特任教授）

エシカル消費などとカタカナ用語が氾濫する現代ですが、さらにその先をゆく簡略英文字表記が急増中です。表題の SDGs と ESD などはその典型といえるでしょう。この両者とも私が推進している環境教育に関連する用語ですが、なかなか日本語にはならず説明に苦慮しています。ただ、両者に共通する「SD」は「持続可能な開発 or 社会」という理解しうる日本語があるのでそれぞれを「持続可能な開発 or 社会目標」、「持続可能な開発教育」と言えば良いと思うのですが。

SDGs は国連の「我々の世界を変革する持続可能な開発のための 2030 年目標」というタイトルの英字略号で、小文字の s は主目標が 17 あるので複数になっているのです。やや長いタイトルではありませんがせめて「2030 年をめざした持続可能な開発のための 17 目標(SDGs)」とでもすればかなりわかり易くはなるのではないのでしょうか。SDGs は 2015 年にスタートした世界を変革するための国連発の世界目標であり、先進国から途上国まで誰一人取り残さないをモットーに「環境」と「社会開発」を統合し 2030 年を目指して進行中で、企業なども持続可能性をめざした指標として現実的に活用し始めています。これまでの環境や貧困といった個別の課題に対処する政策ではなく、これからの世界や社会のあり方を根底から変革しようとする目標となっています。実際に地域の環境の改善は地域に新たな価値や雇用を生みだし、世界的な温暖化対策は自然災害を軽減しより経済的にもより良い未来をつくりだします。また、そのための教育が ESD でもあります。これまでの「生きる力」といった漠然とした教育目標に世界標準の新たな指標が示されたともいえるでしょう。私たちの環境活動もわかり易い説明を心がけながら SDGs や ESD を意識して進めてゆければと思っています。

ESD : Education for Sustainable Development の略称

持続可能な開発目標 (SDGs) SDGs は Sustainable Development Goals の略



みどりの市民の活動はどの活動目標に当てはまるでしょうか？ 当てはめてみました。

環境学習⇒4,6,7,8,9,14,15,16,17 省エネ⇒7,4,8,9,12, 水環境調査⇒,4,11,14,15, 携帯トイレ⇒ 6,14,15 , みどり農園⇒4,8,9,11,13,15  
グリーンコンシューマー・エシカル⇒12,1,2,3,4,8,11,17

## エシカルたまご学習会【究極の卵かけご飯を味わおう】

とき:11月3日(文化の日)

ところ:松代の養鶏場  
(株)大地の卵)  
松代町歩きセンター  
(松代伝承館)

参加:大人と子供20名

一人の日本人が1年間に平均300個の卵を食べているという私たちの食生活に欠かせない卵、そんな卵の親は鶏?どのような卵がいいの?そんな疑問を少しでも解決し、もっと卵と鶏についても知ってもらおうと、養鶏場を訪ねるエシカルたまご学習会を開催しました。初めての試みで、秋晴れの空の下、楽しい学習の場になりました。



### 養鶏場『大地の卵』見学

松代町清野は、豊かな農地が広がる地域です。その一角にある養鶏場『大地の卵』は遠くまで元気な鶏の鳴声が響いてくるのですぐにわかりました。早速靴を消毒して鶏舎に入れてもらうと次々に鶏が人懐こく足元に寄ってきて、そういえば農家の庭先ではこんな風景が当たり前だったことを思い出します。この「平飼い」の鶏たちは太陽の光を浴び自由に駆け回りながらのびのびと育てられ、その餌は、魚粉や遺伝子組み換え食品、抗生物質の入ったものは一切使わず、余剰食品や野菜、米ぬか、おからなど人間も食べられるものを食べ、そして栄養たっぷりの山吹色をした卵を産むというのです。説明の後はその生みたて卵2個とその卵を使ったヨーグルトを頂き、松代まち歩きセンター「伝承館」へ移動、いよいよ「究極の卵かけご飯」の昼食です。(平飼い:ケージ飼いではなく鶏が動き回ることができる小屋の中で飼うこと)



エシカルについての学習会は昼食のできる時間を利用して行いました。耳慣れない言葉に知っているとう手を上げた方はいませんでした。今日のような卵を買うことがエシカルということを伝え、参加者は納得。



「究極の卵かけご飯」の昼食 メニューは、鶏小屋から直送の卵2個、長野市産のはげかけ米のコシヒカリ2升を大きなガス釜で一気に炊き上げたごはん、煮干しでだしをたっぷりとり長野産野菜と西山豆腐と自家製味噌によるお味噌汁、南瓜の煮物、お漬物、お醤油も手作りで、これぞ「究極の卵かけご飯」になりました。お陰でお替りが相次ぎ、2升あったご飯もお釜の底が見えるようになり、残りのご飯はおにぎりに、又僅かに残ったお味噌汁、おかず、漬物もお土産にして結果、食品ロスはゼロでした。

会食の後は情報交換と一期一会の出会いで新たな発見があり、エシカルの学びの場となりました。

～参加者の声～

- ◆地元にある素晴らしい企業。もう9年もやられているとの事ですごいなと思いました。勉強になり、ご飯もおしかったです。
- ◆エシカルという言葉聞いたのも触れたのも初めてだった。これからはそういう点も気にして生活していきたい。

「エシカル」ってどういうことなの?

エシカル (ethical) = 「倫理的・道義的」という意味です。エシカル消費とは、環境にも、人にも、社会・地域にも配慮したものやサービスを選んで消費することです。ひとつの商品を手にする時それらは多くの人の手を経てきています。お買い物をする時、自分が手にしているもののせいで、自然が破壊されたり、誰かが苦しんだり、自然が破壊されたりしていないか、又生き物たちが過大な苦しみを味わっていないかなど、その商品の見えない向こう側のことまで考えることが必要です。具体的には、フェアトレードのコーヒーやチョコレートを買う、農薬や化学肥料を控えた野菜を買う、鶏らしく飼われ産んだ卵を買う、できるだけ使い捨てでない物を大切に使う、マイバッグ持参、環境ラベルの付いた商品を買うなどの買い物をすることです。みんながつながっている。生かされている。そして、みんな笑顔になれるお買い物のことです。(みどりの市民 渡辺)

## 平成 30 年活動報告

### みどり農園今年も無事終了！！

今年は川田農園初年度でしたが何とか運営ができました。

テーマは「大勢が参加し、有機栽培（みどり農園）を体験しよう！！  
く大地と太陽）を感じて、種まきから収穫に参加し、作る楽しさ、収穫の喜びを実感する場」でした。大豆を主とし、トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、大根、白菜を栽培、採れたものは現場作業参加者に還元していこうと活動してきました。来年も多くの方の参加お待ちしております



- ★活動日誌（後半） 前半は43・44号にて掲載済  
10月13日（土）サツマイモ掘り・大豆収穫（10人）  
11月24日（土）大豆脱穀・野菜収穫（11人）  
\*上記の他草刈り、畦盛り等適宜実施  
\*コンポストを設置して草などの堆肥化を実施

《大事件!!》サツマイモは順調に育ちましたが、なかなかほとんどが桃畑でたくさ生息しているようです。甘みのあるサツマイモは美味しいのかな？



### ★今年の収穫量（全体）

- 大豆 約 100 kg（みどり農園交流会、味噌材料として使用予定）、もろこし、大根、ジャガイモなど参加者に配布。  
大豆は選別してようやく食べられます。



11月10日 聖護院大根  
僕の顔とどちらが大きい



11.月24日大豆脱穀

作業の後は楽しいお茶です

### ★今後の予定

- みどり農園交流会&ママたち大集合～豆腐づくり～ 参加費300円  
2月24日（日）10時～13時ふれあい福祉センター調理室・和室
- 味噌づくり 4月上旬 \*\*（報告：山口）（写真 山口&渡辺）



## お知らせコーナー



### どんぐり・るるネット会員募集

会員は段ボール堆肥の実践をして、ケチャップと淡竹の水煮をゲット。  
生ごみの一次生成物は自宅まで回収に。  
新しい基材（竹チップ・パウダー）を提供。  
キッチンも段ボールの中もいつもさわやか！  
年会費 1000 円  
（詳細はみどりの市民へ）

### 【1月～3月行事予定】 理事会:3月

- 2月2日（土）ESD交流会参加
  - 2月3日（日）エシカル・エコサロン
  - 2月5日（火）生ごみアドバイザー公開講演会
  - 2月24日（日）みどり農園&ママさん大集合
  - 3月6日（水）生ごみ減量アドバイザー例会
  - 3月17日（日）エコふぁみりあ
- ★FMぜんこうじコトコトの省エネ学級  
毎月第4水曜日 8:40～8:50

〒 380-8553 長野市若里4-17-1信州大学工学部  
UFO ながの高木研究室  
TEL&FAX 026-269-5092  
E-mail midorit 18. @shinshu-u.ac.jp  
URL http://midorinoc.sub.jp/



### 《キャンパスの一隅にて》

工学部内に移転して7ヶ月、学生たちに囲まれてのお昼、40年前の姿が脳裏をよぎる。地球温暖化がこれほど進むとは。この学生たちが私の年になる40年後の世の中はどのようなになっているのか想像すらできない。（H）